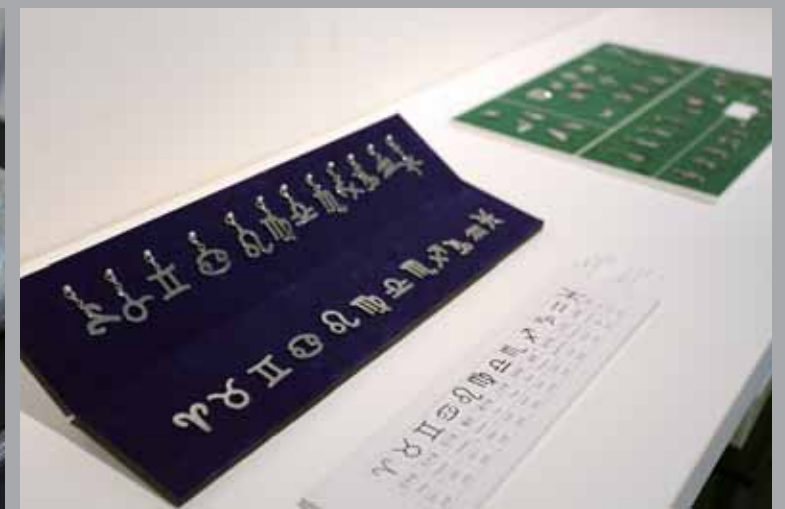


錫 1964 ~ 2014
やさしい光につつまれて

Yoshiho MAWATARI

2014.9/18(木) ~ 9/23(火) 11:00 ~ 19:00(最終日は 16:00 迄)



今回の展覧会は「錫 やさしい光につつまれて 馬渡喜穂展」という錫をつかった、生活の中にとけこむ身近な道具の展覧会でした。

会場には花器や酒器、お皿を中心に、他の素材との相性を引き出した、盛り皿(竹)、三段重(漆)、宴箱(木)やピンバッチなどの様々な作品が並びました。

馬渡先生の作品はシンプルな形、用途、表面の模様から構成されています。この模様は作品の表情をつくり、反射された光が、色々な場所で馴染むようになっていきます。作品の柔らかさなどは模様をつくる為に使っている和紙から来ているのかもしれませんが。この表面を磨くことにより、溝の深さを調節し様々な顔を作っていきます。作品の外と内では違うテクスチャーになっており、中には反射率の高い網目のような模様が施されています。これにより中に入れた物がより引き立ちます。

シンプルな形は他の物を邪魔するわけではなく、いろいろな物、場所に寄り添うように優しく存在していきます。先生のいう『くらしに愛と潤いを』とは、生活の中に調和をもたせ、そしてそれを愛でていき、時間を掛けていくという言葉なのかなと感じさせられます。

今回の展示でも、作品ひとつひとつが主張を強めるわけではなく、しっかりと凛としながら、場所によりお互いがお互いを引き立て合っているとても居心地の良い展覧会でした。

